

内科医会学術講演会（平成27年10月3日）

『プライマリケアで出来る関節炎の鑑別診断 ～病歴・身体診察のポイント～』

聖路加国際病院 Immuno-Rheumatology Center 医長 岸本暢将 先生

座長コメント

近年、関節リウマチの診療は飛躍的に進歩し、早期に診断治療することによって患者さんの予後が大きく改善することが明らかになってきました。よって関節痛を訴えて受診する患者さんを最初に診る我々プライマリケア医の役割もこれまで以上に重要になっていると思われます。

そこで今回岸本暢将先生には『プライマリケアで出来る関節炎の鑑別診断』をテーマに「病歴・身体診察のポイント」というまさにプライマリケア医が関われる部分について、講義していただきました。

まず、関節炎なのか関節以外の原因による関節痛なのかを鑑別し、関節炎という事であれば鑑別は簡単であると述べられた上で、関節リウマチとの鑑別診断を含めて、多数の関節炎症例について明快な説明がありました。我々プライマリケア医が関節炎の患者さんを診療する際には是非知っておくべきことを講義してくださったのだと思います。多彩の関節炎症例の供覧がありましたのでそれを以下に列挙します。プライマリケア医としてそれぞれの臨床像をイメージできるでしょうか？

関節リウマチ	変形性関節症	痛風	偽痛風
サルコイドーシス	成人Still病	淋菌性関節炎	リウマチ性多発筋痛症
RS3PE症候群	C型肝炎ウイルス感染でインターフェロンによる関節炎	傍腫瘍症候群（肥厚性肺性骨関節症など）	皮膚筋炎
更年期の関節症	反応性関節炎（クラミジア関節炎）	脊椎関節炎	乾癬性関節炎
Sjögren症候群	SLE	B型肝炎ウイルスによるウイルス性関節炎	パルボウイルスB19によるウイルス性関節炎

なお、脊椎関節炎は、臨床的特徴により強直性脊椎炎、乾癬性脊椎炎、クラミジア感染症後や細菌性下痢症後などに発症する反応性関節炎、Crohn病や潰瘍性大腸炎に関連した関節炎、分類不能脊椎関節炎に分類され、脊椎と末梢関節に病変が起る炎症性関節炎の総称です。（日本内科学会雑誌の平成26年10月号に岸本先生が「脊椎関節炎」の総説を書かれていますのでご覧ください。）

日常診療で関節痛の聞くとすぐに整形外科にコンサルト…なんてことはないと思いますが、プライマリケア医としての関節炎の知識を持って、病歴・身体診察から識別診断する努力をし、疾患によっては適切なタイミングで専門医へ紹介し、診断が遅れて早期治療の機会を逸することがないようにすることがポイントと考えます。いずれにしても会員の日常診療における関節炎診療のレベルアップに大いに寄与する講義内容であったと思います。

(座長：高井医院 高井博正)